

事業名	担当
青陵インパクト	青葉区中央市民センター☒
1 事業の目標 (ねらい)	
<ul style="list-style-type: none"> ・中高生が、地域の一員としての役割を認識し、できることを考え行動するという社会参画につながる活動を展開す ・地域活動の体験や、カードゲームを小学生に伝える活動などを通して、郷土を大切に作る心情を育むとともに、地域を支える次世代の人材育成を目指す。 	
2 事業内容 (手法)	
<ul style="list-style-type: none"> ①対象者 仙台市立仙台青陵中等教育学校の生徒 ②活動内容 中1～高3までの企画員を広く募集し、まちづくりにつながる活動を展開する。 	
3 令和2年度の取り組み	
<p>仙台青陵中等教育学校にて、平日の放課後の時間（概ね16:15～17:30）に月1回の定例会を実施。定例会の内容は以下の通り。登録者数：中学生6人，高校生12人</p> <p>【定例会月日・内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回 8月21日（金） カードゲーム「青陵インパクト」の体験，紙芝居「たろうくんの冒険」の視聴，グループワーク「まちづくり」とは？ ・第2回 9月30日（水） カードゲーム「青陵インパクト」の修正についての話合い ・第3回 10月27日（火） 大人事業「国見ヶ丘・吉成・南吉成の魅力再発見」の方3人と青陵の森に設置する巣箱づくり ・第4回 11月25日（水） カードゲーム「青陵インパクト」の修正についての話合い ・第5回 12月16日（水） カードゲーム「青陵インパクト」の修正内容の検討 <p>（予定）1月～3月の定例会にてカードゲームの改訂版を作成</p>	
4 これまでの経緯	
<p>事業の目標を達成するため平成30年度事業開始。生徒が広範囲から通学し、多様な地域の情報をゲームに反映できるとともに成果も広く還元できることから、仙台青陵中等教育学校を連携先にした。</p>	
5 令和元年度事業の実績と成果	
<p>登録者数：中学生7人，高校生9人</p> <p>① 6月～10月 青葉区内市民センター5館（メンバー参加は3館），児童館17館（メンバー参加は4館）にてカードゲーム「青陵インパクト」を実施</p> <p>→ゲームを行った子どもたちから「楽しかったよ」「ゲームなんてよく考えられるなあ」「説明の仕事が分かりやすかったよ」という感想をもらい、メンバーはこのカードゲームに自信を持った。また、ゲームの遊び方を紹介する動画や青陵インパクトの活動を紹介する新聞、町内会の活動を説明する紙芝居づくりを行った。</p> <p>② 7月，10月 国見ヶ丘5丁目町内会役員会・班長会の見学・手伝い</p> <p>12月 国見ヶ丘5丁目町内会餅つき・芋煮会の手伝い</p> <p>→実際に町内会役員と話をすることにより仕事の重要性，やりがい，苦労などを学んだ。親が町内会の役員をしているメンバーからは「誰かがやらないといけない仕事だと分かった。手伝えることは手伝ってあげたい」と感想があった。</p> <p>③ 11月3日 青葉区民まつりにてカードゲーム「青陵インパクト」を実施。参加者73人。</p> <p>→多くの参加者と一緒にカードゲームを行った。小学生に加えその保護者やシルバー世代の方ともゲームを行う。年代により反応も異なることが分かり，地域に関してより深く考えることができた。</p> <p>④ 12月21日 仙台市教育委員会主催「仙台市教育課題研究発表会」（東二番丁小学校）へ参加発表。</p> <p>⑤ 1月19日 市民センター事業「成果報告会」（せんだいメディアテーク）へ参加発表。</p> <p>→二つの大きな発表をやり遂げ，自己肯定感の高まりがその態度から感じられた。また，他区の様々な発表を聞くことにより，学校を越えた学びの場の実感や社会教育事業への関心が見られた。</p>	
6 今後の展開・方向性	
<p>校内での生徒同士に加え様々な年代との交流体験により，主体性を高め，地域で活躍できる子どもたちが育成されると考え，事業を継続する方針である。今後は地区館に子ども事業の魅力や可能性を伝えつつ，市全体で市民参画型事業が進むようにしたい。</p>	

